

## 交流拠点のリノベーションイメージが検討されました

第5回北条旧市街地町屋くらし再生塾では、主に今年度を実施した「魅力発掘調査」の報告と交流拠点の活用についての話し合いが行われました。

今回のワークショップ通信では、この2つのテーマに沿ってお伝えします。

### 魅力発掘調査の結果より、在郷町としての魅力が報告されました。

#### 【調査のねらい】

北条旧市街地の歴史文化を活かしたブランディングの基礎資料として、成立過程を通じて「魅力の語り方」を兵庫県立大学と明石高専が共同して調査・発掘。

#### 【北条旧市街地の特徴】

- ・ 成立過程の中に在郷町としての特徴。
- ・ 農業を営みながら商工業をも営む在郷町としての性質が農業・商業・工業が混在した現代までにつながっている。
- ・ 扇状地と谷筋が繰り返す自然の地形にあわせて市街地が広がっており、路地と水路を含めこれらがまちを構成する特徴。

#### 【ストーリー展開】

- ・ ストーリー1：中世時代の酒見寺・住吉神社の門前町としての発展
- ・ ストーリー2：江戸時代における在郷町としての発展
- ・ ストーリー3：近現代における商工都市としての発展

#### 【今後の整備戦略】

- ・ 回遊コア（ホテルから南町、本町、大日堂に至り旧役場からホテルに戻るルート）の充実
- ・ 回遊コアを中心に東西に人の流れをつくるために東西地区にも回遊拠点を整備。
- ・ 街歩きのサポートに向け、駐車場等の整備も見据える。

※在郷町とは、近世の農村に成立した町で、農業を営みながら商工業をも営む、農民による町。



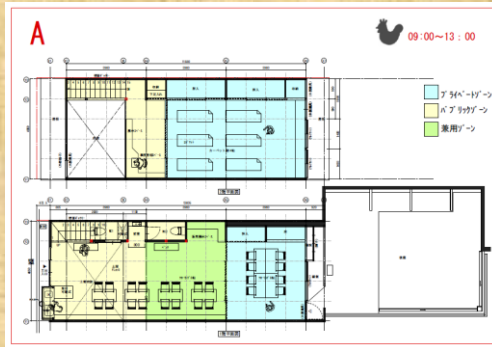
#### ◆主な意見

- ・ 宿場町でなく、在郷町であることに北条のまちの成り立ちがあると思う。
- ・ 他と差別化するうえで在郷町という視点は重要。
- ・ 良好な自然環境の中にある都市的要素をもったコンパクトなまちであり、拠点を整備し、住民も観光客もまちを使ったり、仕事ができたり、暮らせる場になればよい。
- ・ まち歩きをする際には、地元の人と話をすることが大事。会話を持つ機会をもったほうがよい。

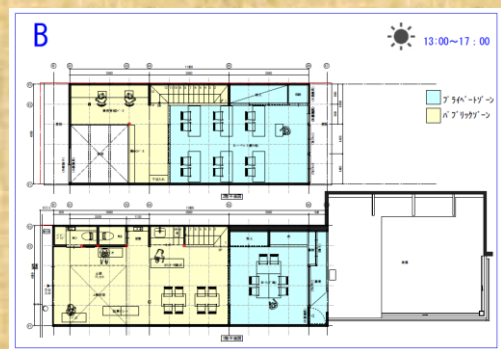
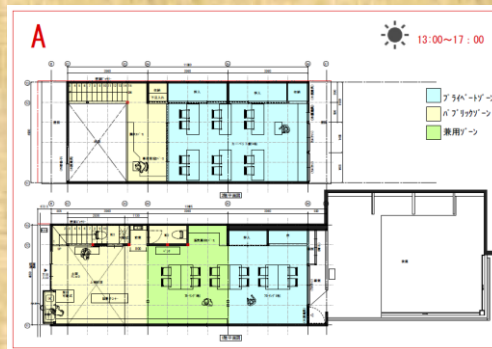
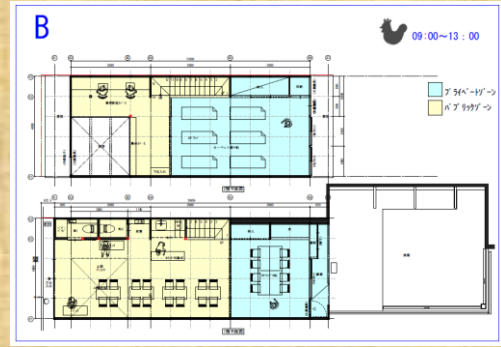
## 春陽堂の活用例が検討されました。

■実施日  
3月14日  
■場所  
旧春陽堂

### A案



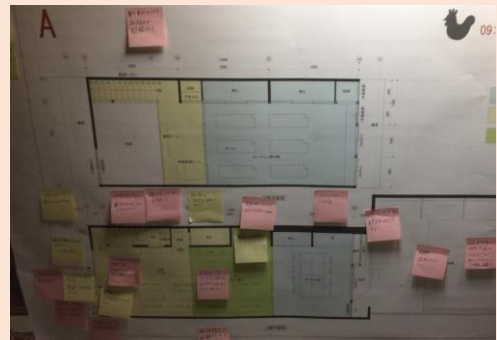
### B案



A案・B案（午前の利用・午後の利用）の2案が提示されました。

利用者視点から、追加したいスペースや機能、フロアの考え方、階段の位置やトイレの位置などが検討されました。

## 当日の様子



### 【追加したいスペースや機能】

- ・裏庭に坪庭や石庭をつくれなないか。縁側でゆっくりできるとよい。
- ・車や自転車で来る人のことも考慮し、駐車場や駐輪場の確保が必要。

### 【フロアの考え方や入り口等の改修】

- ・入口は吹き抜けにする。中央の柱は外し、天井はそのまま活用する。階段側の壁は残していく。ただし、収納は少ないため確保は必要。
- ・部屋ごとを区切れるようにはするが、1階の全フロアをつなげて使えるようにもする。
- ・今の入り口の形状を残し、外からも中からも人が見えるようにして、春陽堂の歴史を感じさせる使い方をする。